

保育所を7園から3園（はなのき、あすなろ、くるみ）に再編へ

令和7年9月30日（火）及び令和7年11月6日（木）に保育所等のあり方検討委員会が開催されました。保育所等のあり方検討委員会では、公立保育所の目指す姿を示し、その実現に向け、公立保育所を再編する必要性を確認し、**現在7園ある保育所を3園（はなのき保育園、あすなろ保育園、くるみ保育園）に再編する方針**が示されました。

再編に当たっては、**保護者や市民への説明を丁寧に実施した上で、経過措置等の対策を設けることも必要**であるとされました。

1 公立保育所の目指す姿

乳児期の愛着形成や幼児期の集団保育の重要性を認識し、保護者の就労時間等に応じ、安心安全に子どもを預けることのできる保育施設を維持することを考慮した上で、公立保育所の目指す姿を次のとおりとしました。

○年齢に応じた適切な集団保育の実施と異年齢クラスの解消

3歳未満児の保育：保育士が一人ひとりの子どもの気持ちを受容し、丁寧に寄り添うことが大切です。親子の愛着形成が大変重要な時期であるため、保護者と信頼関係を構築し、親子の愛着形成を推進するための支援を行います。

3歳以上児の保育：友達と遊ぶことが増え、同年齢での集団保育の必要性が高まります。年齢に応じた適切な活動を提供し、社会性、協調性、コミュニケーション能力、自己肯定感を育みます。

異年齢クラスの解消：体格や体力面の違い、安全性の配慮から活動が制限されている状況を解消し、年齢や発達に適した活動を提供することで、子どもの健やかな成長を促します。

○長時間保育や一時預かりなど多様な保育の維持・拡充

長時間保育の維持：保育士不足により、今後5年以内に7：30～19：00の保育が困難になる見込みです。保護者の就労時間に応じた保育を実施することは、保育所の存在意義に関わるため、保育士の集約化により、現在の保育時間を維持します。

一時預かり事業など多様な保育の拡充：保育所では、一時預かり事業や園開放などさまざま事業を実施しており、令和8年度からはこども誰でも通園制度が始まります。

保育施設に入園していない家庭も含めた子育て環境充実させるため、様々な事業を拡充します。



○高まる未満児保育のニーズへの的確な対応

核家族化や共働き世帯の増加などにより、3歳未満児の保育ニーズは、一層高まると想定され、今後、待機児童が発生する可能性が高い状況です。保育士の集約化により、3歳未満児の保育ニーズに的確に対応し、待機児童ゼロを実現します。

○民間保育施設との連携による子ども中心の保育・教育環境の整備

認定こども園等との連携を深め、それぞれの長所を最大限に生かすことで、未就園児を含めた全ての子どもたちのニーズに応じた保育・教育環境を整備し、今後の子育て環境をより一層充実させます。

待機児童が発生することなく、家庭と保育所の信頼関係のもと

子どもの生きる力を育む保育の実現

2 公立保育所再編に向けた現状と課題の整理

将来にわたり安心・安全な保育を提供し、公立保育所の目指す姿を実現するためには、保育所の再編が必要であることを確認し、現状と課題を整理しました。

◎保育施設の利用状況

はなのき保育園、あすなろ保育園、くるみ保育園は、利用者が多く、異年齢でクラスを編成することなく、全ての年齢で利用されています。

しらかば保育園、どんぐり保育園、たけのこ保育園は、定員の半数以下の利用となっており、異年齢でクラスを編成しています。

保育施設の利用状況（令和 7 年 3 月末）※色付は異年齢構成クラス

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園	8	19	20	26	26	18	117
あすなろ保育園	7	17	9	24	27	32	116
しらかば保育園	2		8	5	5	8	28
どんぐり保育園		3	2	4	7	6	22
たけのこ保育園			1	5	3	8	17
くるみ保育園	5	8	15	13	17	8	66
公立保育所計	22	47	55	77	85	80	366
大町幼稚園		2	6	10	17	11	46
こまくさ幼稚園			14	11	18	21	64
りんどう幼稚園			14	12	15	20	61
きらり大町総合病院園	3		1				4
民間保育施設計	3	2	35	33	50	52	175

◎地域別の現状と課題

(1) 大町地区

大町地区の2歳以上の保育施設利用者数は、今後も200人前後で推移し、他地区と比較して最も多いことが見込まれます。保育施設の利用状況では、はなのき保育園とくるみ保育園が多く、認定こども園3園の利用も一定程度あります。

(2) 平地区

平地区の2歳以上の保育施設利用者数は、令和10年度以降40人程度で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、りんどう幼稚園の利用が多く、くるみ保育園としらかば保育園は、それぞれ20人程度の利用があります。平地区北部からでも、りんどう幼稚園、しらかば保育園、くるみ保育園は車による30分以内の通園が可能です。

(3) 常盤地区

常盤地区の2歳以上の保育施設利用者数は、令和10年度以降80人前後で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、あすなろ保育園に利用が100人を超え最も多く、認定こども園の利用も一定程度あります。

(4) 社地区

社地区の2歳以上の保育施設利用者数は、30人に満たない状況で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、どんぐり保育園が17人と最も多い状況ですが、他地区の公立保育所や認定こども園の利用も一定程度あります。社地区から大町地区中部や常盤地区に設置された保育所への移動に関しては、車による20分以内の所要時間で通園が可能です。

(5) 八坂地区

八坂地区の2歳以上の保育施設利用者数は、10人から15人程度で推移すると見込まれます。保育施設の利用状況では、八坂地区の2歳以上の児童全員がたけのこ保育園を利用しています。舟場地区や野平地区から保育施設への移動に関しては、たけのこ保育園以外の保育施設を利用する場合、車でも30分以上の所要時間が必要となります。

（6）美麻地区

美麻地区の2歳以上の保育施設利用者数は、10人程度で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、みあさ保育園が休園中のため、しらかば保育園、りんどう幼稚園、大町幼稚園などの利用があります。青具地区から保育施設への移動に関しては、大町地区及び平地区であれば30分以内で通園が可能で、民間保育施設の場合通園バスも利用されています。

◎公立保育所の施設面の課題

0歳児及び1歳児の需要が高まる中、再編に当たり3歳未満児用の保育室を一定程度確保する必要があります。

しらかば保育園、どんぐり保育園、たけのこ保育園、みあさ保育園は、建築から20年以上が経過し、特にみあさ保育園は老朽化が著しく、運営の再開には、大規模な施設改修又は建替えが必要になります。

公立保育所の建築年と保育室の設置状況

施設名	延床面積 (㎡)	建築年	経過年数 R7.4.1現在	保育室数 (室)			合計	定員 (人)
				未満児用	幼児用	子育て支援室等		
はなのき保育園	1937.5	H20	17年	3	6	3	12	150
あすなろ保育園	1815.4	H29	8年	4	6	3	13	180
しらかば保育園	686	H16	21年	1	3	1	5	60
どんぐり保育園	795.1	H11	26年	1	3	2	6	60
たけのこ保育園	597.9	H6	31年	1	3	1	5	45
みあさ保育園	460.42	S61	39年	1	3	0	4	45
くるみ保育園	1456.16	H23	14年	2	4	2	8	110
合計				13	28	12	53	650

3 公立保育所の再編

公立保育所の再編を検討するに当たり、再編後の施設数や利用する保育所を選定するため、利用状況や地理的な条件、施設面などさまざまな視点から検討を行いました。

◎年齢に応じた適切な集団保育のための施設数

令和10年度以降、公立保育所を利用する3歳以上児は、各年齢50人程度で推移するため、3歳児から5歳児までの子どもの成長に配慮した適切な集団保育を実施することを考慮すると、1クラス15人から20人程度とし、市内全体で各年齢3クラスを編成することが妥当です。各園にそれぞれの年齢のクラスを編成するためには、3園以下に再編することが望ましいとされました。

その場合のクラスを担当する保育士は、現在の配置状況や子どもの状況に即した適切な保育を実施するため、55人程度が必要になります。

◎長時間保育（7：30～19：00）を維持するための施設数

令和7年5月現在において長時間保育を担当する職員は、本来28人必要ですが、17人しか確保できておらず、今後も減少する見込みです。令和10年度の長時間保育利用者数の想定から必要な保育士を推計すると、早朝で22人、夕方で15人が必要となります。

今後、長時間保育を維持するためには、通常時間に勤務している保育士の早出遅出シフト勤務の導入が不可欠であり、現在、通常時間に勤務する保育士82人程度の人数で、園長、副園長又は主任、クラス担当保育士、長時間シフト勤務保育士を確保できる施設数にすることが必要です。

再編後の保育所数に対する必要な保育士の人数を推計すると、4園以上に再編した場合、異年齢でクラス編成を行うため、1園当たり少なくともクラス担当保育士が3人必要となり、長時間シフト保育士2人と園長を加えると、1園増えるごとに6人保育士が必要になります（表参照）。

このことから公立保育所で長時間保育を維持するためには、3園以下に再編することが望ましいとされました。

再編後の保育所数に対する必要保育士数

保育所数	園長	フリー主任	クラス担当 保育士	長時間シフト 保育士	合計
2園	2	2	55	22	81
3園	3	3	55	22	83
4園	4	3	58	24	89
5園	5	3	61	26	95
6園	6	3	64	28	101

◎未満児保育のニーズに対応するための施設数

3歳未満児の保育需要の増加により、公立保育所を再編したとしても3歳未満児のクラス数はそれほど減少しないことが見込まれます。現在の公立保育所全体の未満児用保育室の13室では不足するため、再編に当たっては幼児用の保育室等を未満児用の保育室に改修する必要があります。

3園以下に再編した場合の保育室数は、**市全体で幼児用保育室を11室程度、未満児用保育室を15室程度は確保する必要**があり、現在の公立保育所の保育室数の状況から考慮すると1園又は2園では、改修を行ったとしても保育室数が不足することから、**3園に再編することが望ましい**とされました。

◎再編後に活用する保育所

再編後の3園に関し、いずれの保育所を利用するかを検討するに当たり、次の考え方を整理しました。

(1) 地理的な条件からの考え方

地理的な条件からは、八坂地区の一部の地域を除き、いずれかの保育施設に車により30分以内で送迎できることを考慮し、**市域の北部、中部、南部に1園ずつ再編することが妥当**となりました。**八坂地区に関しては、30分を超える通園時間となる地域があることから、保護者等の意見を聞いた上で経過措置又は通園対策を検討する必要がある**と示されました。

(2) 利用状況を考慮した考え方

今後の児童数と保育所の利用状況を考慮すると、**はなのき保育園(市中部)とあすなろ保育園(市南部)を残すことが必要**と示されました。**市北部**に位置するしらかば保育園又はくるみ保育園では、利用者数が多い**くるみ保育園を活用**することが妥当とされました。

(3) 保育施設から見た考え方

保育施設の面からは、効率的な維持管理を考慮すると建築年の新しい施設を選択することが考えられ、また、3園に再編する場合の保育室数を考慮すると、**保育室数が多い、あすなろ保育園(13室)、はなのき保育園(12室)、くるみ保育園(8室)を活用**することが妥当とされました。

◎再編の時期と経過措置

公立保育所の目指す姿の早期実現に向けて、保護者や市民への説明を丁寧に実施した上で、できるだけ早く再編を行うことが望ましいとされました。一方で、現在の利用状況等に基づき経過措置等を設けることも考慮する必要があり、特に**八坂地区については、通園距離に関して課題があることから、対策を検討する必要性**が示されました。

4 再編後の施設の活用

再編後の施設の活用に関しては、市の子育て環境の充実につなげることが重要であると確認し、利用者数の増加と保育室の不足により望ましい支援が実施できていない母子通園施設**あゆみ園を再編後の施設に移転し、活用することが有効**であると示されました。その場合の**活用施設は、現在のあゆみ園の設置場所から近い、しらかば保育園又はどんぐり保育園が適当**であるとししました。

5 今後の予定

保育所等のあり方検討委員会で示された内容を踏まえ、今後、保護者や市民の皆様への説明会を実施し、幅広くご意見をいただいた上で、様々な対策や再編時期等を検討する予定です。

※保育所等のあり方検討委員会の資料及び会議録は、市のホームページに掲載しています。

URL: <https://www.city.omachi.nagano.jp> (市ホームページトップページ)

市民の方へ→子育て・教育→保育園・幼稚園・児童センター→保育所等のあり方検討委員会

問い合わせ：市子育て支援課児童係 電話 0261-22-0420 (内) 681